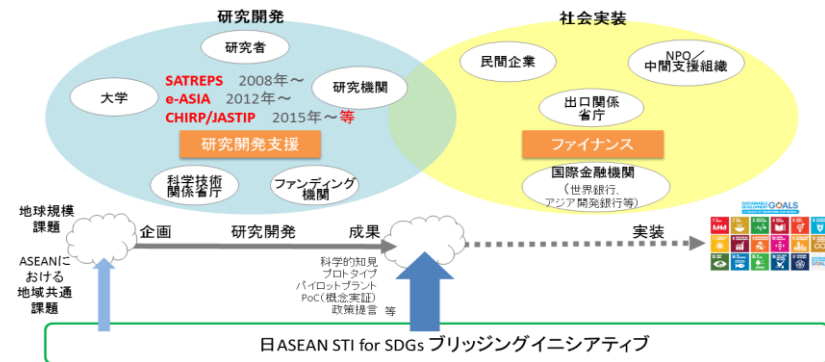


【背景】

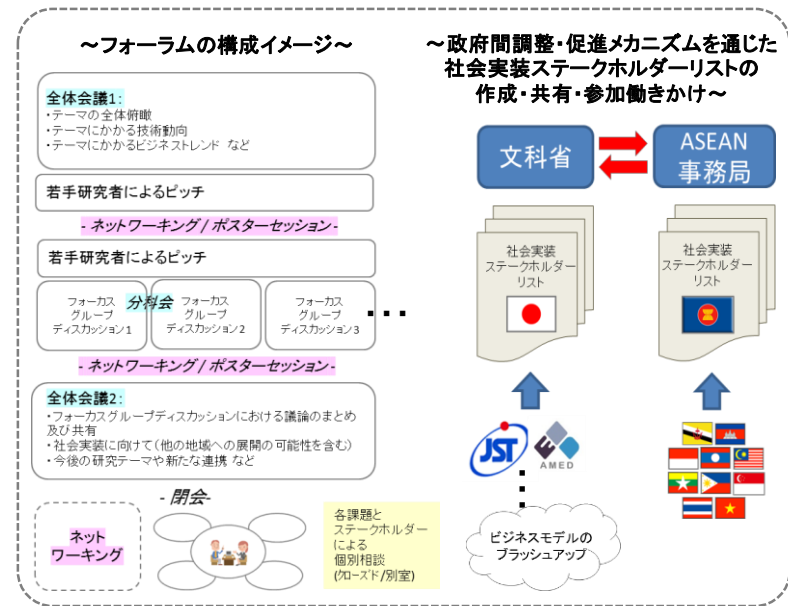
- 日本とASEAN諸国との間には科学技術分野における協力の歴史がある。SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)をはじめ具体事業を開始して10年。
- 近年では、研究フェーズからの「卒業課題」が毎年出てきており、SDGsへ貢献する事例が見られる。社会実装の促進に向け、日ASEAN協力を一段階ステップアップする時期。
- 社会実装にあたっては、研究開発と社会実装のステークホルダーのギャップの橋渡しをする仕組みが必要。

※STI for SDGs: SDGs達成のための科学技術イノベーション



本イニシアティブを構成する文部科学省の主な取り組み

- 「日ASEANマルチステークホルダー戦略コンサルタンシーフォーラム」の開催**
(例: マルチステークホルダー間のネットワークングおよび議論の機会【H31年度新規】)
ASEAN事務局・ASEAN諸国政府の関与による調整・促進を得て、テーマや対象課題に応じて、日本側と相手国・周辺国側の研究者・専門家・企業等の出口ステークホルダーによるワークショップ形式のフォーカスグループディスカッションやマルチステークホルダー会合を定期的に(例えば年1回)実施。適切な出口ステークホルダーによる実務検討に繋げる(例: 出口ステークホルダー側の資金によるパイロットプロジェクト等)ことで社会実装を促進するとともに、その後のフォローアップを行う。
- 研究開発成果を活用したビジネスモデルのブラッシュアップ支援**
(例: SATREPS SDGsビジネス化支援プログラム【H31年度新規】)
日本国内において、実施課題に対し、ビジネスモデルのブラッシュアップ・構築支援を行い、出口戦略の具体化や状況を踏まえたピボット等を促すとともに、ワークショップ形式のフォーカスグループディスカッションやマルチステークホルダー会合を通じて、日本企業の参画を含め日本側パートナーシップ構築を促進する。
- 日ASEANで共に取り組むための若手行政官のSTI for SDGs対話の機会設定**
(例: さくらサイエンスプランASEAN若手行政官招へいプログラム【継続】)
STI for SDGsに係る認識を共有するとともに、社会実装に係る政策課題や自国でSTI for SDGsロードマップを策定する上での示唆となる議論を行う。
- ステークホルダー間の情報の共有・活用**
(例: CHIRP/JASTIPでのデータベース構築【継続】)
※CHIRP/JASTIP: 「国際共同研究拠点(CHIRP)」日ASEAN科学技術イノベーション共同研究拠点(JASTIP)



→社会実装に向けては、国内の関連省庁・機関と連携していくとともに、上記フォーラムでは世界銀行等の国際機関とも連携する。

2018年に入り、ASEAN各国と問題意識の共有を開始

- タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシアを訪問し、STI for SDGs関係者と問題意識を共有・意見交換(2月～7月)
- ASEAN内対日調整国であるベトナム外務次官(4月)、ASEAN COSTにおけるシンガポール議長であるA*STAR マネージングディレクター(4月)へのブリーフィング
- STSフォーラムASEANワークショップ@フィリピン(4月)において文科省の取組について紹介



本イニシアティブ構築に向けASEAN事務局と調整

- ASEAN事務局への説明・意見交換、及びフォーラム開催に向けての打ち合わせ(2月・5月・6月・7月)
- 第74回ASEAN COST(5月)、日ASEANフォーラム(高級実務者会合)(6月)へのインプット

本イニシアティブ開始についてASEAN各国と合意

- 2018年10月18日の日ASEAN科学技術協力委員会(AJCCST-9)にて本イニシアティブについてまとめの議論を行い、**ASEAN各国とその開始を合意**
- また、「日ASEANマルチステークホルダー戦略コンサルタンシーフォーラム」について、2019年10月にタイにて第1回の開催(テーマ: サステイナブルエネルギー)を合意

→2018年11月14日の日ASEAN首脳会議議長声明に掲載